

淡路島観光未来宣言

淡路島では、大阪・関西万博を機に、ひょうごフィールドパビリオンをはじめ、地域の魅力を体験できる多様な観光プログラムを開発、提供し、地域産業の振興にもつながる着地型観光を展開してきました。

このような中、2025年4月には神戸空港に国際チャーター便が就航し、2030年の国際定期便就航に向けて、インバウンドの増加が見込まれます。また、2028年には大鳴門橋自転車道が開通し、瀬戸内周遊への期待も一層高まっています。

私たちは、関西及び瀬戸内の結節点に位置する淡路島の地の利を改めて認識し、この機をとらえ、関西及び瀬戸内との2軸の広域連携戦略の展開を通じて、アフターワン博における淡路島観光のさらなるステージアップ、観光を基軸とした淡路島の一体的な振興をめざすことを宣言します。

1 瀬戸内エリアとの連携による芸術・文化を活かした周遊促進

瀬戸内エリアとの連携では、淡路島の芸術・文化資源を活かした観光周遊を促進します。世界的なコンテンツである瀬戸内国際芸術祭との協働を図り、淡路島が誇る文化・芸術、伝統芸能などを体験できる国際的な祭典の開催をめざします。

この祭典を大鳴門橋自転車道開通の記念イベントとして、瀬戸内一周500kmの自転車ルート「セトイチ」構想の実現に向けた第一歩を踏み出します。

2 関西との連携による世界に誇る食のエリアを活かした「農・食・観光」の一体的振興

関西との連携では、神戸空港国際化や関西国際空港の増便を契機に増加するインバウンドをはじめとするターゲットに、「食都神戸」と「世界一の食の島」をめざす神戸・淡路が連携し、世界に誇る食のエリアを活かした「農・食・観光」の一体的振興をめざします。

3 淡路島観光MaaSの推進

関西国際空港・神戸空港・徳島空港・高松空港を起点とした、神戸、大阪、京都、四国のストレスフリーな移動利便性の向上を図るため、公共交通網の整備や電子決済化など、淡路島観光MaaSを推進します。